

2 重点

(1) 授業の充実

一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において、確かな学力を身に付けることができるよう、目指す資質・能力を明確にするとともに、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

実践事項

★は、特に力点を置いて取り組んでいただきたい実践事項

1 単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通した授業づくりのための指導計画の作成及び指導と評価の一体化

- ・教科等横断的な視点で作成した年間指導計画を有効活用する。
 - ・単元で育成を目指す資質・能力を明確にした指導と評価の計画を作成する。
 - ・指導と評価の計画に沿って、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を確実に実施する。
- ★「おおむね満足できる」状況(B)を具体的に想定し、授業で適切に見取り、授業改善に生かす。【「おおむね満足できる」状況(B)の設定手順については※参照】

2 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくり

(1)教材研究と授業づくり

- ・「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養に向けた教材研究の深化に努める。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行う。
 - ①主体的な学びの視点
→学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学びが実現できているか。」
 - ②対話的な学びの視点
→子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることを通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
 - ③深い学びの視点
→習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする」と向かう「深い学び」が実現できているか。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。

(2)各教科等の特質に応じた体験活動や問題解決的な学習を重視した指導の工夫

- ・児童生徒が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、体験活動を体系的・継続的に実施する。
- ・児童生徒に問題意識をもたせるための導入を工夫し、思考の流れを重視した授業を展開する。
- ・学校図書館やICTなどを日常的・効果的に活用できる環境を整える。

※「おおむね満足できる」状況(B)の設定手順

(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料)より)

- ①単元(題材)の目標を作成する。
- ②単元(題材)の評価規準を作成する。

【①、②については、学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。また、児童生徒の実態、前単元(前題材)までの学習状況等を踏まえて作成する。】
- ③「指導と評価の計画」を作成する。

【①、②を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画し、どのような評価資料(児童生徒の反応やノート、ワークシート、作品、パフォーマンスなど)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えて設定する。また、「努力を要する」状況(C)への手立て等も考えておく。】